

【基本設計で考慮すべき基本事項（案）】

（１）配置計画

- ① 小学校グラウンドは、現状と同等以上の広さを確保するとともに、サッカー等の球技などが行いやすいよう整形な校庭部分をより広く確保できるよう検討する。（Ⅱ）
- ② 100 年桜を現位置で保存できる配置とする。（Ⅲ）
- ③ 松などの樹木は移植などの手法により保全に努めるとともに、建物ボリュームの分節など、国分寺崖線の景観に配慮した計画とする。また、トンネル門や石垣の意匠を再現するなど学校風景の伝承を図る。（Ⅲ、Ⅳ）
- ④ 登下校門はどの方角から来る児童・園児も通いやすい位置に設け、児童・園児の安全に配慮した溜まり（退避）スペースを設ける。車両動線（緊急車両）については西側道路から学校にアクセスできる配置とする。（Ⅴ）
- ⑤ こども園の園庭は、現状と同等以上の広さを確保するとともに、園舎から園庭が見渡せるように配置する。また、園庭からの出入口は飛び出し防止に配慮した配置とし、園庭は小学校グラウンドや緑地へアクセスできる配置とする。（Ⅱ、Ⅴ）
- ⑥ 菜園や遊具、こども園プールを安全に配慮して適切に配置する。（Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ）
- ⑦ 必要な緑地面積を確保しつつ、斜面地や屋上など、校庭以外の屋外空間における学習環境の充実を図り、子ども達の学習・憩いの場を創出する。（Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ）
- ⑧ 将来の児童数増加に柔軟な対応が可能な平面計画とする。（Ⅰ）

（２）平面計画

① 児童ゾーン

- ・普通教室は、日当たりのよい位置にまとめて配置し、良好な室内環境を確保する。（Ⅱ）
- ・ワークスペースを普通教室に隣接して設置し、将来の児童数増加に対応する。（Ⅰ）
- ・図書室、家庭科室、音楽室、理科室、和室は地域開放を考慮し 1 階を中心に配置を検討する。（Ⅲ）

② 管理ゾーン

- ・職員室や保健室等は、昇降口やグラウンドを見渡すことができる位置にまとめて配置する。（Ⅴ）

③ 運動施設

- ・体育館は、避難所運営も考慮して 1 階に計画する。（Ⅴ）
- ・プールは近隣校のプールを共同利用し、敷地の有効活用を図る。（Ⅰ）
- ・屋根に太陽光発電パネルを配置するなど、アリーナの遮熱性向上を図る工夫を行う。（Ⅱ）

④ 地域施設

- ・地域コミュニティスペース（和室）を設ける。（Ⅲ）
- ・図書室や和室等は、地域開放を考慮した配置とする。（Ⅲ）

⑤ こども園

- ・小学校と連携できるよう、校舎内で行き来できる計画とする。また、小学校と一体の建物とすることによる施設の効率化を検討する。(Ⅰ)
- ・区立幼稚園集約化等計画や幼児教育・保育のあり方検討委員会における検討内容や整備コンセプトとの整合を図る。(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)

(3) その他

① 室内環境

- ・地下階も含め、校舎内の通風・採光を確保し、良好な室内環境を整備する。(Ⅱ)
- ・国立成育医療研究センターの近くに立地している地域性も考慮し、医療的ケア児への配慮やユニバーサルデザイン・バリアフリー対策を徹底する。(Ⅱ)

② 防犯・災害対策

- ・避難所運営のための水確保や太陽光発電など非常時対応を考慮した設備計画とする。(工事中の避難所運営については今後担当課と調整を図る。)(Ⅴ)
- ・雨水利用や雨水流出抑制対策を行い、大雨の際の下流域への影響を低減する。(Ⅴ)
- ・校舎から死角となる箇所の安全対策を検討する。(Ⅴ)

③ 維持管理

- ・屋上への階段設置など、維持管理動線を適切に確保する。(一)

④ 工事中

- ・工事中の児童の安全を最優先とした仮設計画とする。(Ⅴ)

※各項目の(Ⅰ～Ⅴ)は、左側「基本方針(案)」の各項目と対応している。

【基本方針】

基本方針

複合化を活かした多様な教育や子育ての拠点となる施設

【教育・子育て（Ⅰ）】

- ・ 小学校・こども園・地域の交流を促進し、思いやりのある子どもを育てる空間づくりを行います。
- ・ 多様な教育や将来の児童数の変化に対応できる、柔軟性のある計画とします。
- ・ 子どもたちの多様性に配慮し、地域の子育て支援の拠点として活用できる計画とします。

子どもたちの健康・体力の向上に寄与する施設

【生活・健康（Ⅱ）】

- ・ 広い校庭・園庭や屋上利用など、活発な活動ができる空間を確保し、子どもたちの健康・体力の向上に寄与する計画とします。
- ・ 医療的ケアを実施できるよう配慮された学校環境整備や、快適に過ごせる学習・生活空間を整備します。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい計画とします。

地域とともに歩む開かれた施設

【地域・景観（Ⅲ）】

- ・ 国分寺崖線の景観や、学校の風景伝承を図り、地域と調和のとれた計画とします。
- ・ 地域開放に配慮し、「砦っ子夏祭り」などの地域活動に活用しやすい計画とします。
- ・ 既存樹を大切にするとともに、新たな樹木を植え、永く地域に親しまれる計画とします。

自然とのふれあいを大切にする地球にやさしい施設

【自然・環境（Ⅳ）】

- ・ 菜園や緑地の整備など、子どもたちが自然に触れられる環境を整備します。
- ・ 自然エネルギーの積極利用による環境への負荷低減を図り、ZEB化を推進するとともに、環境配慮の「見える化」など、子どもたちが体感できる計画とします。
- ・ 木材の積極的な活用を検討し、あたたかみのある学習・生活空間を計画します。

児童と地域を守る安全安心な施設

【安全・防災（Ⅴ）】

- ・ 小学校とこども園のセキュリティ区分や動線に配慮し、適切な教室・施設配置を計画します。
- ・ 災害に強く、避難所として安心して活用できる計画とします。
- ・ 擁壁や歩道整備など地域防災に貢献する計画とします。

世田谷区立砧小学校児童ワークショップ実施報告

「つなげよう砧の過去・現在・未来」意見まとめ

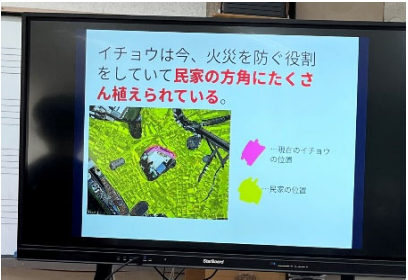
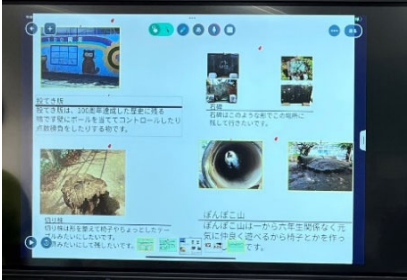
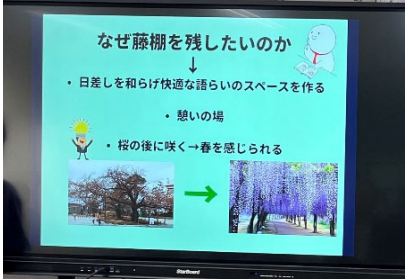
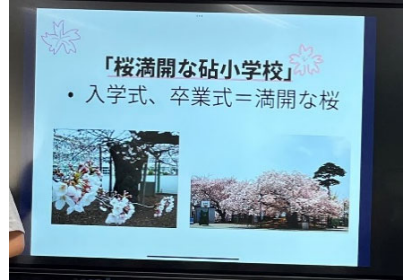
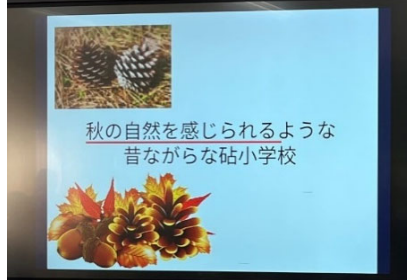
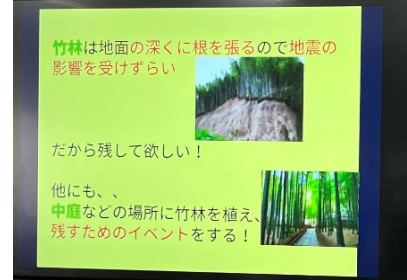
- ワークショップ開催日：令和6年10月15日(火)
- 会場：砧小学校 音楽室
- 出席者：

砧小学校 6年生(2クラス 計69人)

入江教授

世田谷区：鍋坂、片倉

久米設計：川井、斎藤、鈴木、早川

ワークショップ意見						
テーマ	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Fグループ
	イチョウ	ぼんぼこ山、投擲版、石碑	藤棚・畑	百年桜、ボツリ桜、銀座の桜	松、キンモクセイ、ギンモクセイ	竹林
						
なぜ残したいか？	・水分が多く、火事に強い ・民家からの火災を防ぐ ・銀杏を非常食として利用 ・暮らしを安全に町を豊かにする	・砧小学校の歴史の継承 ・昔ながらのものを大切にする	・日差しを和らげ快適な語らいのスペース ・憩いの場となる ・春を感じられる	・入学式卒業式に咲く春の風景 ・歴史のある桜 ⇒百年桜：百年以上の歴史 ⇒ボツリ桜：20年以上の歴史 ⇒銀座の桜：銀座から来た ・世田谷100景 ・砧小学校の象徴	・秋の自然を感じられる ・松ぼっくりやキンモクセイなどの香り ・歴史を感じられる	・地面深くに根を張るので、地震の影響を受けづらい ・国分寺崖線の景観
残すために どうするか？ どこに残すか？	・民家側の校舎付近に移植	・新しい場所に移動 ・切り株を家具や遊具として利用 ・タヌキの置物などの工芸	・藤の量を増やす ・緑のフェンスとして利用 ・畑は果物や野菜を植えて給食で提供 ・ピザ釜は残置	・百年桜：校庭の端以外の場所で現状保存 ・ボツリ桜：校庭や目立つ場所 ・銀座の桜：日当たりのよい見やすい場所	・そのまま保存	・そのまま保存
そのほかの 活用方法	・家庭科室のまな板として活用 ・机として再利用 ・イチョウの葉を利用した工芸			・百年桜：校内に模型を飾る ・ボツリ桜：木製のブランコ ・銀座の桜：石碑を残す ・余った木材はスモークチップに加工	・松：飾り、棚として活用 ⇒種を育てて次の学年に引き継ぐ ・モクセイ：生け花、飾り、芳香剤	・中庭などに植え、竹林を活かしたイベントを開催。 ⇒春：タケノコ堀り ⇒夏：七夕、流しそうめん ⇒秋：箸づくり ⇒冬：竹を利用した籠づくり、竹細工

世田谷区立砧小学校児童ワークショップ実施報告

「つなげよう砧の過去・現在・未来」意見まとめ

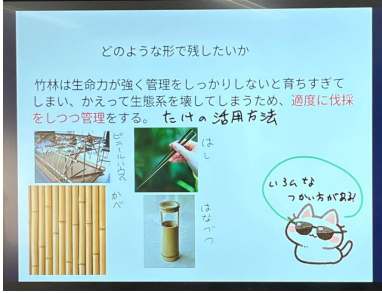
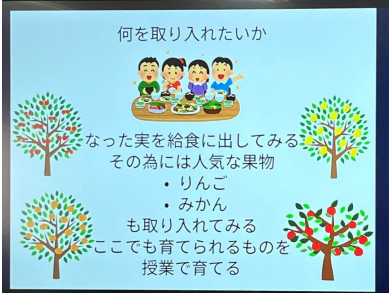
- ワークショップ開催日：令和6年10月15日(火)
- 会場：砧小学校 音楽室
- 出席者：

砧小学校 6年生(2クラス 計69人)

入江教授

世田谷区：鍋坂、片倉

久米設計：川井、齋藤、鈴木、早川

ワークショップ意見						
テーマ	Gグループ	Hグループ	Iグループ	Jグループ	Kグループ	Lグループ
	芝生	百年桜	畑	竹林	実のなる木	イチヨウ
						
なぜ残したいか？	・自然豊かな学校にしたい ・休憩所や憩いの場として利用 ・熱中症対策	・砧小学校のシンボル ・児童や地域の人から大事にされている ・季節を感じられる ・フィトンチットという成分によるリラックス効果	・収穫した野菜などを食べることで自然を感じる	・発火点が高く、耐火性がある ・土砂崩れから守る ・二酸化炭素を吸収する	・1年を通して、視覚・嗅覚・味覚の3つで季節を感じることができる ⇒視覚：花や葉の色づき ⇒嗅覚：花や実の香り ⇒味覚：実	・水分が多く火に強い ・季節を感じられる ⇒四季により色が変わる ・認知症の防止 ・花粉予防 ・アレルギー対策
残すために どうするか？ どこに残すか？	・現在の場所で保存 ・おしゃれにところどころタイルを敷いたり、家具を置いたりする	・衰弱しないよう手入れ ・そのまま保存	・土を柔らかくし、栄養を与える ・畑はそのまま保存 ・藤棚は畑の一部として保存	・竹林は生命力が強く、管理をしないと育ちすぎてしまい、生態系を壊してしまう可能性 ⇒適度な伐採による管理・増やさず整備	・根回し→枝葉の切り取り、テープを巻いて幹の保護→移植 ・成った実を給食で提供(みかんやりんごなど人気な果物も取り入れる)	・家庭科室や給食室の周り植えて、火事が広がらないようにする
そのほかの 活用方法		・木を捨てずにテーブルやイスに活用	・畑の木は校舎の内装として利用	・ビニールハウス、箸、壁、花筒として活用	・新たに植え授業で育てる ・屋上に果樹園をつくる	・ローテーブルやウッドデッキとして活用